



不妊白書2018

当事者5,526人の声から見えた
「仕事と不妊治療の両立」



Fine NPO法人Fine (ファイン)

～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～



はじめに

皆さんは「不妊」という言葉をどう感じますか？「聞いたことがある」「なんとなく知っている」「知人が不妊治療をしている」……でも「自分には関係ない」、そう思っている方が多いのではないのでしょうか。

現在、日本で不妊に悩むカップルは5.5組に1組^(※)といわれ、日本で生まれた子どもの約19.7人に1人は体外受精や顕微授精など高度な生殖補助医療（ART）で生まれています^(※)。また、不妊は女性だけの問題とみなされがちですが、男性不妊も少なくなく、不妊は男女を問わず深刻な問題となっています。

このように不妊は「少数の人の特殊な問題」ではなく、社会問題のひとつといえます。そして、働きながら不妊治療をする人は多く、仕事と治療の両立に悩む人は少なくありません。

そこで、不妊当事者が具体的にどのような悩みや課題を抱えているのか、また企業におけるサポート制度の現状などを把握するために、Fineでは「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート Part2」を実施しました。5,526人もの方が回答し、仕事と不妊治療の両立に苦心する切実な声が多数寄せられました。

さまざまな立場の方やより多くの方々に、こうした実情を知っていただきたく、『不妊白書2018』の発行に至りました。

今、社会ではダイバーシティ&インクルージョンが提唱され、一人ひとりがそれぞれの能力を最大限に発揮し、いきいきと働ける環境づくりが求められています。生き方や価値観、働き方、幸せの定義等は、人それぞれ違います。だからこそ、その違いを互いに理解し、尊重し、ともに新しい価値を創り上げていくことが必要だと思います。「産みたい、働きたいを実現できる社会」「女性が真に活躍できる社会」の実現も、そのひとつです。

この『不妊白書2018』が、それらの実現への一歩となれば幸いです。

NPO法人Fine 理事長 松本亜樹子

*5.5組に1組：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」より。
生殖補助医療による出生児数：日本産科婦人科学会「ARTデータ」（2015年）より。
出生数：厚生労働省「人口動態統計」より。

目次

第1章	仕事と不妊治療の両立の現状	P7
第2章	不妊治療と働き方	P14
第3章	職場におけるコミュニケーション	P21
第4章	企業のサポート体制について	P27
第5章	経済的な負担の現状	P35
第6章	不妊・不妊治療について	P45
第7章	当事者団体としての活動	P49
付録	アンケート調査票見本	P53

調査概要

「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート Part2」

- 目的

前回調査(※)から約 3 年が経過した今、当事者の「仕事と不妊治療の両立についての現状」「企業による仕事と不妊治療の両立に対するサポート制度の現状と当事者の要望」を把握すること。また、アンケートから当事者の声をまとめ、不妊治療やその環境向上の啓発のために周知を図る

※NPO法人Fine「仕事と治療の両立についてのアンケート」実施期間：2014年5月15日～2015年1月5日

- 対象者

仕事をしながら不妊治療を経験したことのある、もしくは考えたことのある男女

- 回答者数

5,526人

そのうち「仕事をしながら不妊治療をした経験がある、または経験はないが考えたことがある（考えている）」と回答した5,471人

- 実施期間

2017年3月30日～2017年8月31日

- 実施方法

WEBアンケート。自由記述を含む35問

- 実施団体

NPO法人 Fine (ファイン)

- 協力：アンケートのプレゼントにご協いただいた企業・クリニック（順不同）

矢追医院様

ながいきや本舗様

アルメディカ株式会社・アキュラ鍼灸院様

ザクロ屋・タナカコーポレーション株式会社様

基礎集計データ

※%は小数点第二位以下を四捨五入して表示

性別

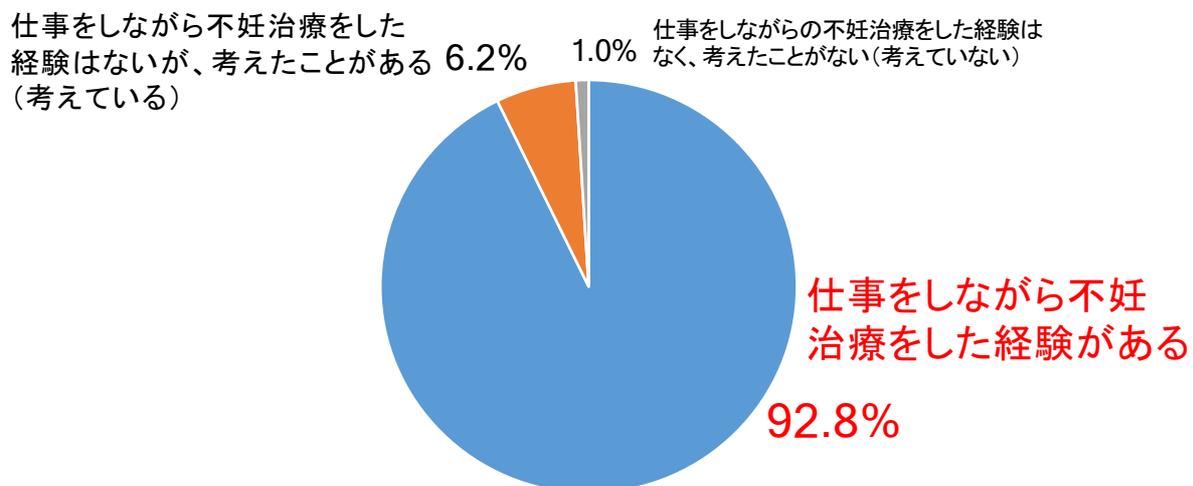
性別	総回答数	有効回答数	割合
女性	—	5,429	99.2%
男性	—	42	0.8%
全体	5,526	5,471	100.0%

年齢

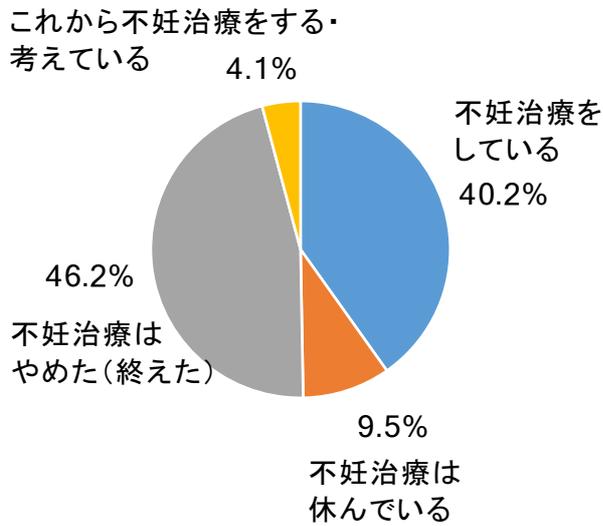
年齢層	人数	割合
～19歳	1	0.0%
20～24歳	11	0.2%
25～29歳	443	8.1%
30～34歳	1,573	28.8%
35～39歳	1,781	32.6%
40～44歳	1,276	23.3%
45～49歳	279	5.1%
50～54歳	87	1.6%
55歳～	20	0.4%
全体	5,471	100.0%

あなたの状況について、あてはまるものを一つ選択してください。

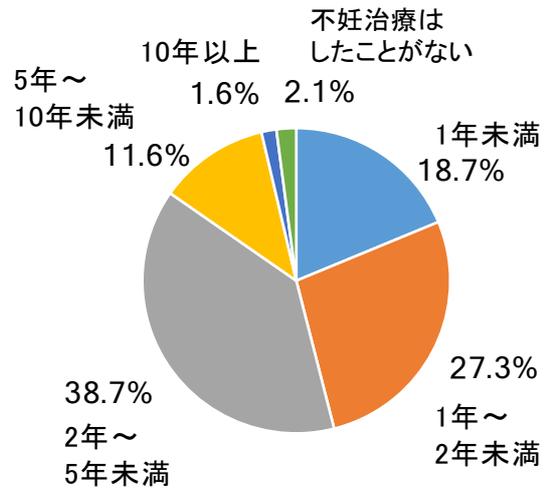
回答数: 5,526



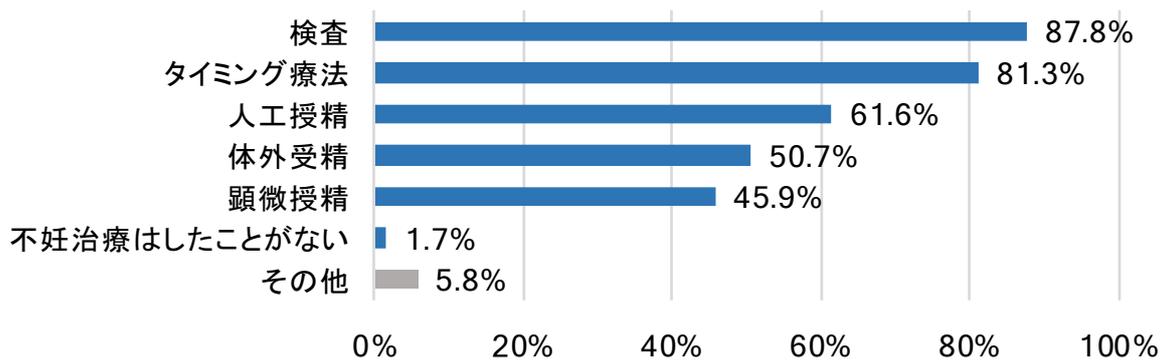
あなたの現在の治療状況について
お答えください。回答数:5,471



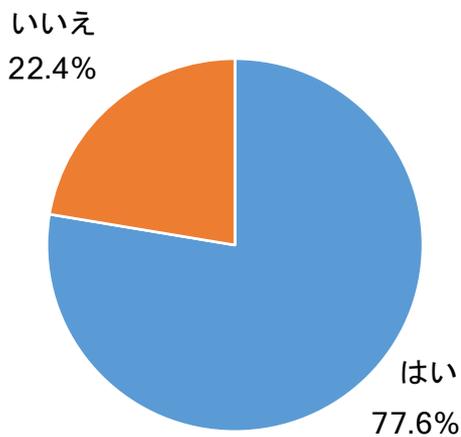
不妊治療期間を教えてください。
回答数:5,471



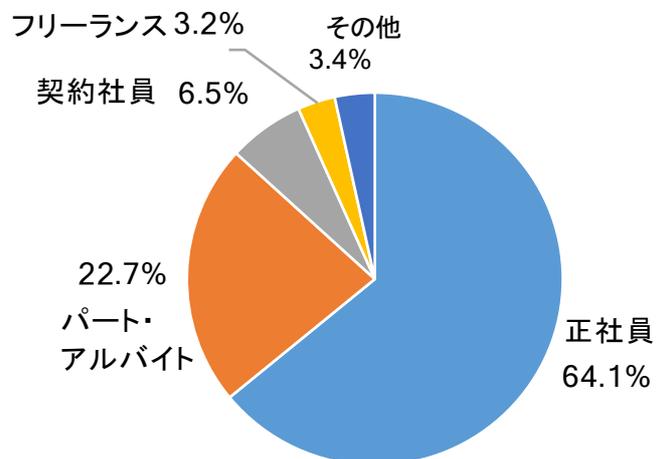
経験したことがある不妊治療内容をお聞かせください。複数回答 回答数:5,471



あなたは現在、仕事をしていますか。
回答数:5,471



あなたの現在の就業形態を
お聞かせください。回答数:4,248



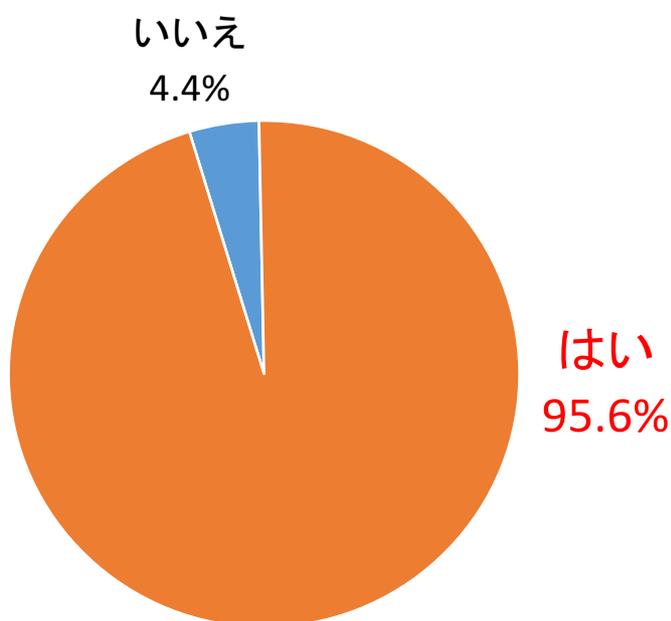
第1章

仕事と不妊治療の両立の現状

約9割が、仕事と不妊治療の両立が難しいと感じている

「仕事をしながら不妊治療を経験したことがある」と答えた5,127人のうち、仕事と治療の両立が難しいと感じたことがある人は、全体の95.6%でした。

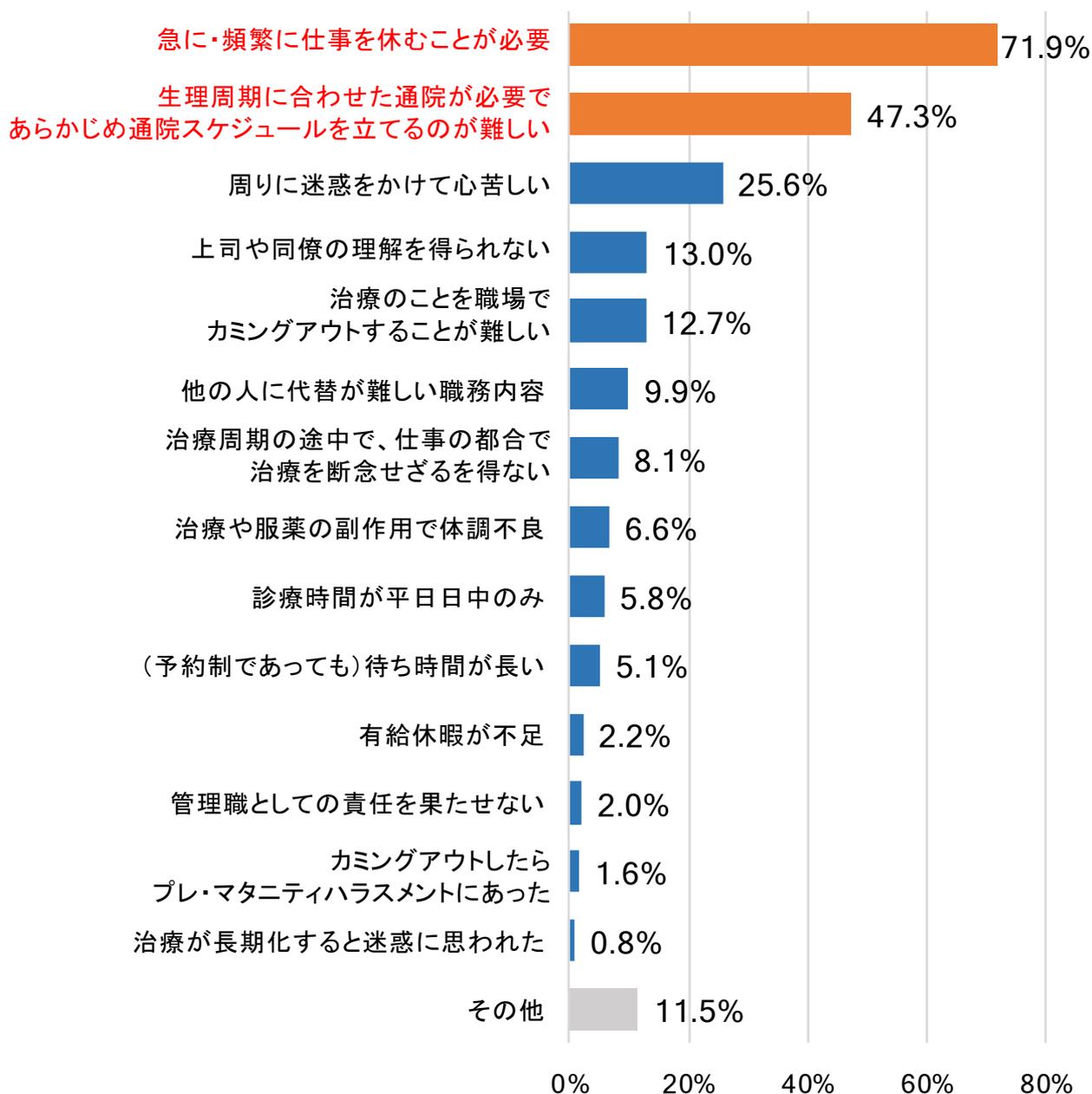
仕事と不妊治療の両立が難しいと感じたことがありますか。 回答数:5,127



約7割は、急な通院、頻繁な通院のため、仕事との両立が難しい

仕事をしながらの不妊治療は、どんなところが難しいと思いますか。
具体的にお聞かせください。

複数回答 回答数:5,076 自由記述を分類



(前ページの説明)

仕事をしながらの不妊治療は、どんなところが難しいのか、アンケートに寄せられたコメントを分類しました。

急に・頻繁に仕事を休む必要があると答えた人が71.9%、続いて生理周期に合わせた通院が必要が47.3%。さらに周り（職場の同僚や上司など）に迷惑をかけて心苦しいと感じている人が、25.6%でした。

不妊治療は女性の生理周期に合わせた治療が中心のため、あらかじめ通院の予定が立てにくく、また排卵誘発剤など薬の影響で体調変化が起こる場合も少なくありません。さらに、治療をしてもすぐに妊娠するとは限らず、いつまで治療が続くかわからないという不安を感じることもあります。

一方、仕事はしたいけれど、治療をしながらでは職場で重要な仕事を担えない、急な休みで周囲に迷惑をかけてしまうのが心苦しい、管理職のため自分が抜けたら業務に支障をきたしてしまうなど、精神的なつらさを抱えることも多いのです。

また、治療周期の途中で仕事の都合で治療を断念せざるを得ない結果になってしまった、営業職のためお客さまへの訪問日程と治療の日程を合わせられないので治療を途中で断念したなど、思うように治療ができないジレンマを抱えるケースもあります。

さらに、「上司に不妊治療をすること、休みが増えてしまうことを告げたが、ある日、妊活か仕事かどちらかを選びなさい」と言われたというコメントもあり、プレ・マタニティハラスメント^(※)の実態が浮き彫りになりました。

※プレ・マタニティハラスメント

妊活に対するハラスメント。NPO法人Fineが提唱している、妊活（妊娠するための活動・努力）や不妊治療を行っている人に対して（意識下、無意識下を問わず）行なわれている職場におけるハラスメント行為を指す言葉。

急な通院、頻繁な通院など あらかじめ通院の予定が立てにくい

「仕事をしながらの不妊治療が難しいと思う理由」の自由記述より

(生理) 周期に合わせた通院が必要のため、あらかじめ通院スケジュールを立てることが難しかったです。
(30代 正社員)

有給休暇は本来1カ月前に申請だが、治療の休みは予測不能。結果的に欠勤対応となったことがありました。(30代 その他)

病院へ行く日にちが、排卵日の特定や採卵、移植などの日程など、その周期によって変わるため、直前にならないとわからないので、仕事のシフトが出せませんでした。(30代 パート・アルバイト)

病院に行く時間が指定できないため、病院に早朝から並んでも出勤時間に間に合わず、有休扱いとなってしまい、最後は減給になりました。(30代 正社員)

職場が急な休みをとりやすい環境ではなく、なんとか午前休をとって病院に行けても、先生から「明日も来て」「明日、人工授精しようか」などと急な予定を入れられることも多く難しいです。(30代 その他)

急遽明日来てくださいと指示があり、さらに1週間の間に何度も通院するので、休みが取れない仕事では退職せざるを得ませんでした。病院の待ち時間も長く、遅刻や早退でも対応できませんでした。
(20代 その他)

教員という立場から参観会、面談、行事など休めないタイミングと妊活のタイミングが重なることが多いです。
(30代 正社員)

管理職だと会議等に参加しなくてはならず、しかし不妊治療の通院日とかぶった際は、会議を休まなければなりません。そのたびに周りに迷惑をかけてしまうので、苦しかったです。(30代 正社員)

二人目不妊だったため、子どもを保育園に迎えに行ってから通院する必要があり、両立は困難でした。(30代 正社員)

顧客のアポのある日に採卵となったとき、どうしても両方とも日程をずらせず、結局採卵を諦めました。(40代 正社員)

特に体外受精にステップアップしたときに、採卵近くになると卵胞チェックのために連日通院したり、仕事が休みにくい日と採卵・移植が重なったりすると、時間のやりくりが大変でした。
(40代 パート・アルバイト)

人間関係の難しさ、 プレ・マタニティハラスメントの実態

「仕事をしながらの不妊治療が難しいと思う理由」の自由記述より

「不妊治療と妊娠は違う」と上司に断言されました。「妊娠を理由とした軽勤務は認めるが、不妊治療を理由にした配置転換や勤務の軽減は認めない」とも言われました。(40代 正社員)

職場に理解してもらおうと、上司に率直に事情を説明しましたが「そんな治療を受けるなら仕事はするな」と言われました。(40代 契約社員)

高齢でもあり「不妊治療を受けること自体がおかしい」と言われ、周囲の理解が得られませんでした。(40代 正社員)

職場の人に「女は仕事か子どもか選ばなくては」などと言われたり、協力が得られませんでした。(30代 その他)

上司から「月2回くらい通院すればいいんだろう」と言われ、「両立しろ」と押し切られました。(40代 正社員)

職場の人から「こんな状況で妊娠したらつわりで休むんでしょ？産休育休取るんでしょ？辞めれば？退職して子どものことに専念すれば？」と言われてしまいました。(30代 正社員)

会社から「昇格してから子どもを作った方がいい」と言われ、なかなか休みが取れず、言い出せません。(30代 正社員)

上司には体外受精をしていると説明しましたが、忙しいプロジェクトに投入され、胚盤胞の移植の周期でも残業が増えてしまったこともありました。(40代 その他)

上司には不妊治療をすること、休みが増えてしまうことを告げました。しかし、ある日「妊活か仕事かどちらかを選びなさい」と言われ、結局退職することになりました。(40代 その他)

前もって治療をしていることを上司に伝えましたが、子どもがいる上司でも不妊経験がなければ、理解を得るのは難しかったです。(30代 正社員)

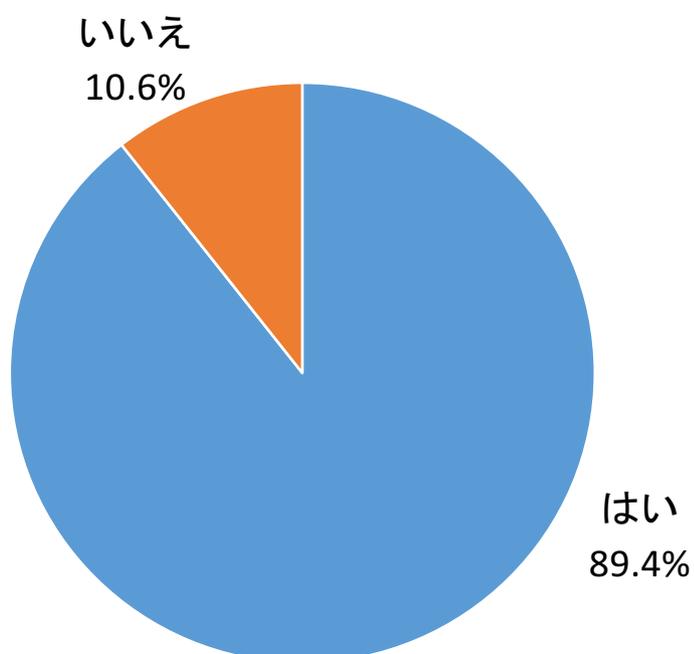
月に何回も通院しないといけないという不妊治療を知らない方が多いので、「また休むの？昨日も病院行ったよね？」と言われました。(30代 正社員)

突然の受診や採卵のため、上司に仕事を調整したいと伝えたが「もう少し長期的に予定が立てられないのか？」と言われました。(20代 正社員)

約9割が、予定に支障をきたした経験がある

不妊治療のために、仕事やその他の予定に支障をきたしたことがあると答えたのは、全体の89.4%でした。

これまで不妊治療のために、仕事や予定に支障をきたしたことがありますか。
回答数:5,471



第2章

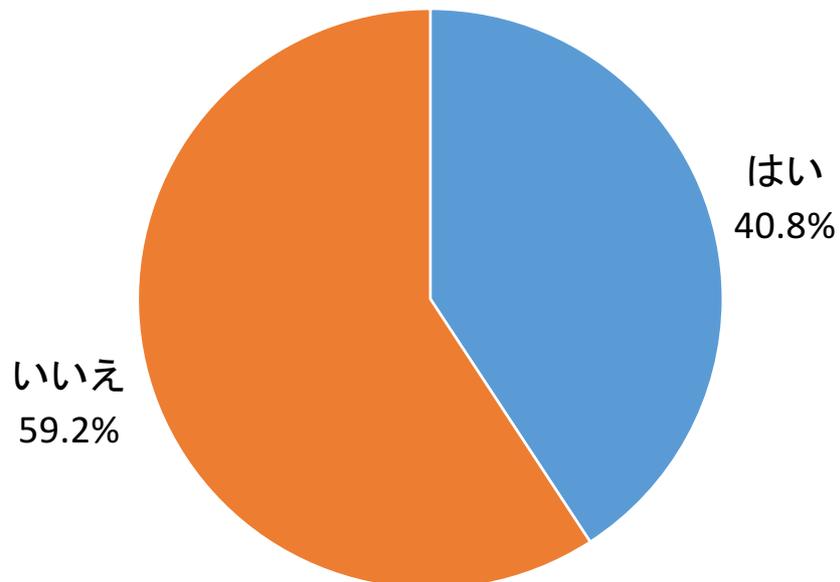
不妊治療と働き方

約4割が、働き方を変えたことがある

仕事と不妊治療の両立が困難なために、働き方を変えたことがあるという人は、全体の40.8%となり、働き方を変えていない人は59.2%でした。

不妊治療との両立が困難で、働き方を変えたことがありますか。
(退職、休職、異動、転職など)

回答数:5,471



働き方を変えた人のうち 約半数は退職している

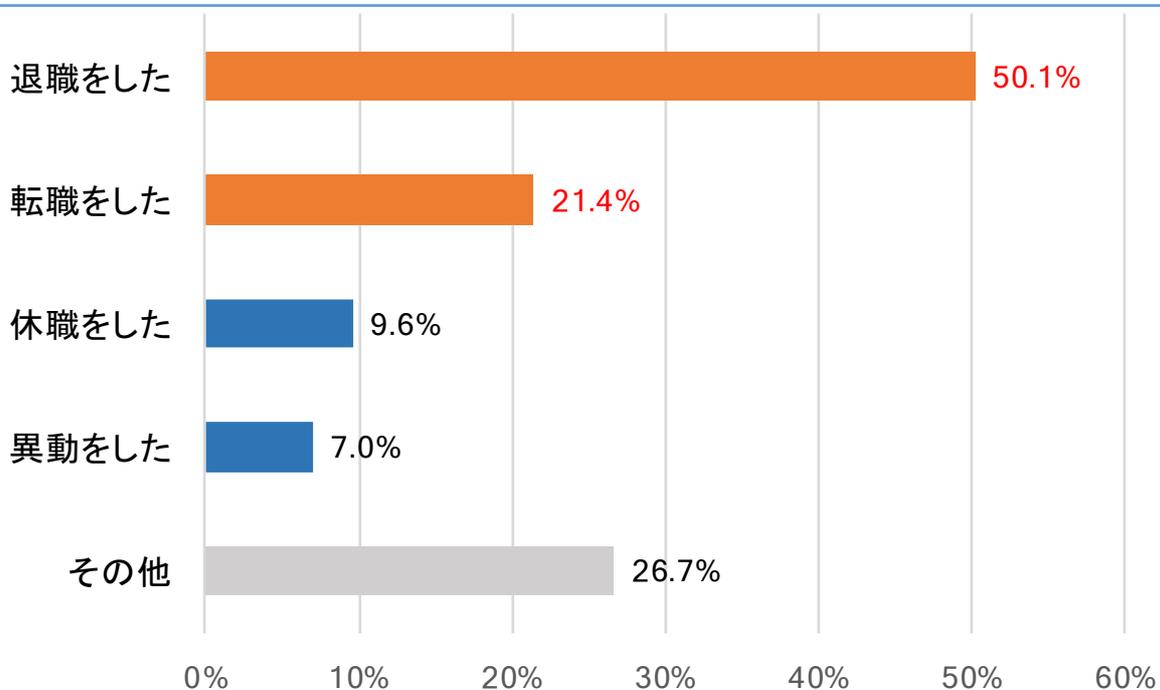
仕事と不妊治療の両立が困難なために働き方を変えたことがあると答えた人は、2,232人でしたが、その中で「退職」を選んだ人は50.1%と約半数にのぼっています。

年齢別では、35歳～39歳が最も多く、続いて30歳～34歳と、仕事のキャリアを積んでいる年代でもあり、一般的に企業がさらなる活躍を期待する年代が多くを占めていました。

当事者が仕事を続けたいと願いながらも、やむなくキャリアを途中で断絶せざるを得なかったことに加えて、企業としては貴重な人材を退職という形で失うという大きな損失につながっていると考えられます。

不妊治療との両立が困難で、働き方を変えたことがあると答えた方で働き方をどのように変えましたか。あてはまるものをお選びください。

複数回答 回答数:2,232



働き方を変えた理由は 通院に関わる時間的な負担が上位

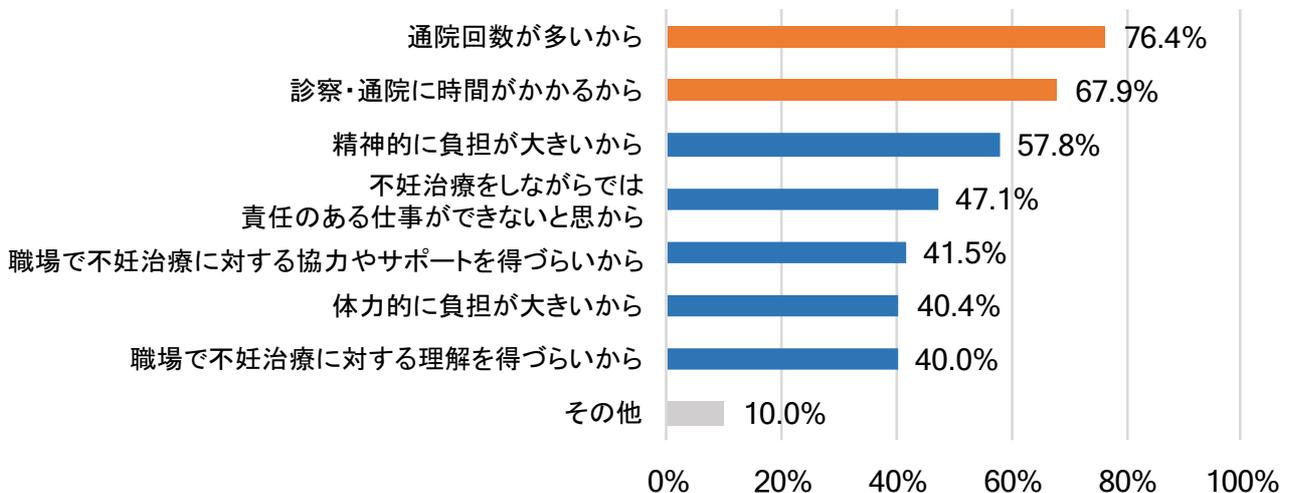
働き方を変えざるを得なかった人で、その理由として一番多いのが「通院回数が多い」76.4%、次に「診察・通院に時間がかかる」が67.9%で、通院に関わる負担が上位にきています。また「精神的に負担が大きいから」が57.8%でした。

さらに、「職場で不妊治療に対する協力やサポートを得づらいから」は41.5%、「職場で不妊治療に対する理解を得づらいから」は40.0%でした。

不妊治療は女性の生理周期に合わせた治療のため、あらかじめ通院の予定が立てにくく、また排卵誘発剤など薬の影響で体調変化が起こる場合も多くあります。回答の中には、「急な受診を必要とされるので出張の予定が組めない」「シフト制なので、急なシフト変更ができなかった」などの声もあり、仕事をしっかりこなしたいが、それができなくて苦勞する姿が垣間見えました。

また、「周りに迷惑をかけていることに申し訳ない気持ちになった」という精神的なつらさを訴える人も多くいました。そして、上司から「治療か仕事かの選択を迫られた」「がんなどの病気と違い、自分の任意の意思であるものだから、同情できないし、休みは与えられない」と言われたケースもありました。職場において治療内容や通院頻度など、不妊治療について知られていないため、通院への理解を得ることが難しい現状がうかがえました。

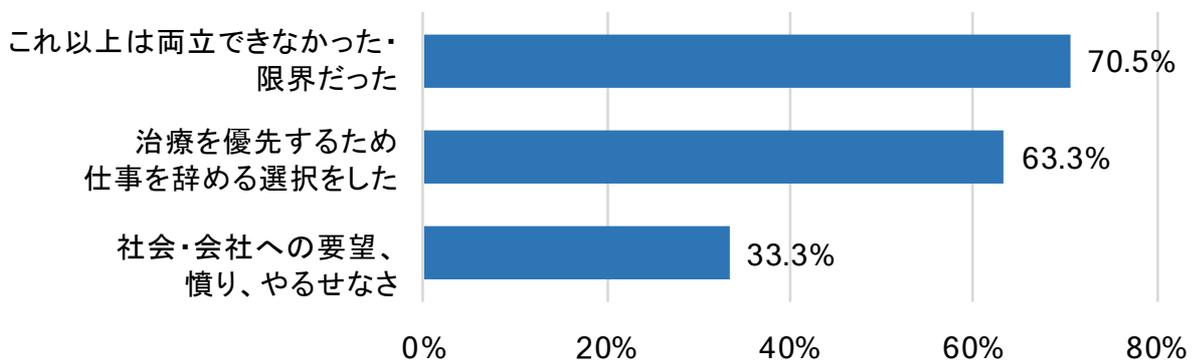
働き方に何らかの変更があった方におたずねします。その理由は何ですか。
あてはまるものをお選びください。複数回答 回答数:2,232



不妊治療のために働き方を変えざるを得なかった時の気持ち（1）

不妊治療のために働き方を変えざるを得なかった方は、その時の自分の素直な気持ちをお聞かせください。

複数回答 回答数:2,103 自由記述を分類



仕事と不妊治療の両立をなんとかしてきたものの、働き方を変えざるを得なかったという切実な声がありました。コメントをご紹介します。

「周囲の理解が得づらい」自由記述より

職場に休職したいと申し出ましたが「それなら辞めろ」と言われ退職しましたが、退職後は悔しさや落ち込みが大きかったです。
(30代 フリーランス)

子どもが普通にできていれば、こんなことにはならなかったのに、悲しく感じました。
(30代 パート・アルバイト)

長く働いて、産休や時短の人を多くサポートしてきたのに悔しい気持ちでした。
(30代 その他)

周りは普通に妊娠、出産をして、産休・育休、時短勤務を使い仕事を続けているのに、自分はどちらかを諦めなければいけないのが悲しく、悔しかったです。
(30代 契約社員)

自分のキャリアを捨てるのは嫌でした。真面目に働いていたつもりが、仕事以外のことで諦めざるを得ないことは、納得いかないと感じています。
(30代 正社員)

職場では不妊治療は全く理解が得られませんが、子育ての場合は優遇されることがとてもつらかったです。
(30代 正社員)

自然に妊娠できれば、産休育休をとり、また戻る場所があるのに、自分は退職までしてしまい、妊娠もできなかつたら女性として情けなく、生きる自信が持てなくなりそうです。(30代 正社員)

今まで妊娠している方の分や、育休、時短の方のフォローをしてきましたが、子どもを授かりたいと願う人は会社では使い物にならないと言われたことが悔しいです。
(30代 その他)

「職場への申し訳ない気持ち」自由記述より

不妊治療に理解のある職場でしたが、遅刻、欠勤が続くと申し訳ないという気持ちが大きくなり、休職しました。1年間休職し妊娠できず、これ以上職場に迷惑をかけられないと思い、退職しました。
(30代 その他)

職場にシフトの調整などで、とても迷惑をかけてしまって申し訳ない気持ちに押しつぶされそうに何度もなりました。毎回同僚に何度も謝っているうちに、子どもがほしい気持ちを何度も諦めかけました。
(30代 パート・アルバイト)

職場は理解があり、治療を最優先させてくれました。その分周りの方がフォローにまわってくれることになり、負担をかけてしまいました。(30代 正社員)

赤ちゃんがほしい気持ちと、職場に迷惑をかけてしまって申し訳ない気持ちが入り混じって、とても複雑でした。
(30代 契約社員)

職場の人に申し訳ないという思いです。協力してくれる職場の人に謝りながら、通院し治療をすることが、精神的にキツかったです。(30代 その他)

相談できる人もいなくて、両立できないことがぐやしかったです。(30代 その他)

治療のために、毎月何度も職場の人に迷惑をかけるのが非常に申し訳なく感じました。(30代 正社員)

仕事をがんばった結果、評価されて昇格の機会が巡ってきたのに、不妊治療を優先させるためお断りしました。断ったのは自分ですが、やるせなさでいっぱいでした。
(30代 正社員)

職場で思うように仕事ができず、自分が役に立たない存在のような気持ちになって、情けない気持ちでした。
(40代 正社員)

不妊治療のために働き方を変えざるを得なかった時の気持ち（2）

「職場で理解してもらえた時のうれしい気持ち」自由記述より

職場の上司が、休暇をすすめてくれたので休暇を取ることができました。
(40代 正社員)

夜勤のある職場でしたが、会社の理解があり、昼の勤務帯に替えてもらえました。
(40代 正社員)

職場で不妊治療に対する理解があり、休職や勤務日数の軽減を提案していただきました。
(40代 正社員)

治療で休む回数が多く、急な変更があるので、少人数の部署から人数の多い部署へ異動しました。上司の「辞めるより異動しよう」という言葉がうれしかったです。
(30代 パート・アルバイト)

不妊治療のための休職制度（1年間がMAX）が会社に導入されたのをきっかけに休職を選びました。
(30代 その他)

職場の理解があり、治療のために部署を異動しました。だからこそ絶対に迷惑はかけたくなかったので、自分でしっかりリスクを説明し、代わりに行なえる業務など提案しました。
(30代 正社員)

毎日時間と成果に追われ、残業も多い職場でしたが、上司に相談して仕事内容を見直してもらいました。
(30代 正社員)

直属の上司から、「毎日定時に帰っても、突然休んでも、早退しても良いから辞めないで」と言われ、毎日定時に帰れるようになったので、とてもありがたいと思いました。
(20代 正社員)

（上司と相談して）役職を変えてもらうことで、不妊治療のために休みが取りやすくなったので、ありがたかったです。
(40代 正社員)